

第16回日本中医薬学会 学術総会抄録集

[総合テーマ]

『時空を超えて伝える伝統医薬学』

会期：2026年9月12日(土)12時15分～17時30分
9月13日(日)9時30分～17時00分

主催：日本中医薬学会

(Japan Traditional Chinese Medicine Association)

■ 市民健康相談	66
「東洋式！健康相談と薬膳アドバイス」	
石川家明（友と共に学ぶ東西両学研修の会（TOMOTOMO））	
木村朗子（ともともクリニック）	
■ 一般演題	69
座長：岸奈治郎（岐至漢方クリニック）	
「順天堂大学東洋医学研究会における卒前教育の現況と展望：全国東洋医学サークルネットワーク構築とその検証」	
津村佳生（順天堂大学医学部附属順天堂医院臨床研修センター）	
「クラウドAIとオフラインAIの比較—山元式新頭針療法知識検索システムを事例として—」	
高資承（台湾山元式学会）	
「手三陰経原穴における主治症記載の比較分析—日中鍼灸専門書籍に基づく標準化への基礎的検討—」	
渡邊大祐（帝京平成大学ヒューマンケア学部鍼灸学科）	
「瘀血が虚血性心疾患に与える影響に関する考察」	
小島晃（一然薬局）	
「中医学のサポートによる流産率・低出生体重児発生率への影響の検証」	
西野裕一（株式会社誠心堂薬局薬剤師・鍼灸師・国際中医師）	
「脾虚湿熱に対する中医学的治療により耳鳴りが改善した1例」	
藤田昌弘（阪神漢方研究所附属クリニック）	
「妊娠関連水腎症に伴う背部痛および腹痛に対して漢方薬と鍼灸を併用した1症例」	
三谷直哉（熊本赤十字病院総合内科）	
「ティーツェ（Tietze）症候群の胸痛に鍼灸治療が奏功した一症例」	
竹下有（清明院）	
■ ポスター発表	79
座長：今藤誠俊（こんどうクリニック）	
「東洋医学をひらく・つなぐプロジェクト—東洋医学への入口教材の制作と初期的配布に関する活動報告—」	
岸奈治郎（岐至漢方クリニック）	
「膀胱癌細胞の増殖に対する Cinobufacini の効果の検討」	
荻原京花（横浜薬科大学薬学部）	
「サリドロシドの TRPA1 および TRPM8 に対する結合特性の解析～分子ドッキングシミュレーションによる検討～」	
青木桃花（横浜薬科大学薬学部）	
「アルツハイマー病への応用を目指したドラッグリポジショニング研究」	
日下部竜聖（横浜薬科大学大学院薬学研究科）	
「抑肝散における補血・活血薬の中樞作用：血液脳関門透過性予測に基づく「血」と精神活動の考察」	
宮澤壽成（横浜薬科大学大学院薬学研究科）	

開催プログラム

9月12日(土)

	エサキホール	講義室A11	実習室C13	学生食堂
12:15	開会式			
12:30	特別講演 「がんサポートケアにおける中 医学的アプローチ」 座長：喻静 演者：板倉英俊			
13:00		一般演題 座長：岸奈治郎 「順天堂大学東洋医学研究会にお ける卒前教育の現況と展望：全 国東洋医学サークルネットワー ク構築とその検証」 津村佳生 「クラウドAIとオフラインAIの比 較—山元式新頭針療法知識検索シ ステムを事例として—」 高資承 「手三陰経原穴における主治症記載 の比較分析—日中鍼灸専門書籍に 基づく標準化への基礎的検討—」 渡邊大祐 「瘀血が虚血性心疾患に与える影 響に関する考察」 小島晃 「中医学のサポートによる流産 率・低出生体重児発生率への影 響の検証」 西野裕一 「脾虚湿熱に対する中医学的治療 により耳鳴りが改善した1例」 藤田昌弘	教育セッション 「『中医学健康相談』のための ワークショップ」 「なぜ緊急の受診勧奨ができ たのか」 木村朗子 「SQと八綱を使った臨床推論」 石川家明	ポスター掲示
13:30	シンポジウム1 「伝統医学の新解釈」 座長：平馬直樹 「腹部経絡の視点から構築し た古方派伝統腹診の臨床活 用～経絡腹診について～」 頼建守 「痛みの漢方治療～現代医学 的解釈と中医学的解釈の融 合」 矢数芳英			
14:00				
14:30	シンポジウム2 「中国医学と日本漢方の繋がり と違い」 座長：清水雅行 「『素問』・『靈枢』の『傷寒論』 への影響」 加島雅之 「中医学と日本漢方の狭間で 私たちが考えること」 藤田康介			
15:00				
15:30	招待講演1 「嶺南医学の源流、現状および 特徴」 〔原題：嶺南醫學的源流，現 状と特徴〕 座長：戴昭宇 演者：張学斌	鍼灸実技講演 「古典に立脚した北辰会の鍼灸 臨床—体表観察と病因病理—」 座長：瀬尾港二 演者：藤本新風		ポスター発表 座長：今藤誠俊 「東洋医学をひらく・つなぐプロジェクト —東洋医学への入口教材の制作と初期的 配布に関する活動報告—」 岸奈治郎 「膀胱細胞の増殖に対するCinobufacini の効果の検討」 荻原京花 「サリドロシドのTRPA1およびTRPM8 に対する結合特性の解析～分子ドッキ ングシミュレーションによる検討～」 青木桃花 「アルツハイマー病への応用を目指し たドラッグロボジニョング研究」 日下部竜聖 「抑肝散における補血・活血薬の中枢 作用：血液脳関門透過性予測に基づく 「血」と精神活動の考察」 宮澤壽成
16:00				
16:30	招待講演2 「台北市における中医医療責任 保険の管理とリスク予防」 〔原題：台北市中醫醫療責任 保險管理與風險預防實務〕 座長：喻静 演者：陳文戎			
17:00				
17:30	1日目終了／懇親会場へ移動			
18:00				
18:30	懇親会			
20:00	湘南鎌倉クリスタルホテル			

中医学のサポートによる流産率・低出生体重児発生率への影響の検証

The Effect of Traditional Chinese Medicine Support on Miscarriage and Low Birth Weight Rates

西野 裕一^{*1}

^{*1}株式会社誠心堂薬局薬剤師・鍼灸師・国際中医師

Yuichi Nishino^{*1}

^{*1}Pharmacist, Acupuncturist, Seishindo Pharmacy Co., Ltd., Japan

【緒言】

本邦では少子化が進む一方、流産率や低出生体重児の割合は高止まりしている。特に高齢妊娠におけるリスク増大は大きな課題である。本研究では、不妊治療において漢方薬を用いた中医学的サポートが妊娠予後に与える影響を検証した。

【方法】

2019～2023年の5年間に誠心堂薬局へ不妊症相談で来局した9430名のうち漢方薬を服用して妊娠に至った1949名（妊娠方法は漢方薬・鍼灸治療群694名、排卵誘発併用101名、人工授精併用182名、体外受精併用725名、顕微授精併用226名、その他21名）を対象とした。流産率を年齢別に算出し、日本産婦人科学会（2021年）の全国統計と比較した。さらに2019年～2023年に安胎目的で漢方薬を服用した595名について低出生体重児の割合を検討した。出産後アンケートにより母子の健康状態も調査した。

【結果】

対象妊娠者1949名の流産数は207名（10.6%）であった。年齢別流産率は25～29歳：144名中10名（6.9%）、30～34歳：586名中26名（4.4%）、35～39歳：724名中59名（8.1%）、40～44歳：470名中108名（23.0%）、45歳以上：25名中4名（16.0%）で、日本産婦人科学会報告（17.1%、19.3%、25.8%、40.5%、54.0%）と比較して有意に低値（ $p<0.001$ ）であった。低出生体重児の割合は全国統計で40歳～44歳11.8%、45歳～49歳15.5%に対し、漢方服用群は35歳～39歳253名中18名（7.1%）、40歳～44歳170名中16名（9.4%）、45歳～49歳15名中1名（6.7%）であった。また、妊娠中の漢方薬は多い順に①当帰芍薬散類（27%）、②十全大補湯（10%）③芍婦調血飲（6%）④帰脾湯類（6%）⑤補中益气湯（5%）⑥六君子湯類（5%）⑦芍婦膠艾湯（5%）⑧逍遥散類（4%）であった。服用期間では、①妊娠4か月未満 19.2%②妊娠5か月から7か月まで 12.3%③8か月以上 68.4%であった。

出産後アンケートでは母親の健康状態は58%が良好、32%が普通、10%が不良（子宮復古不全、貧血など）、児の健康状態は88%が良好、11%普通、1%不良（超未熟児でNICU後に回復）と回答された。

【考察】

漢方薬による中医学的サポートは流産率および低出生体重児発生率の低減に寄与する可能性が示唆された。特に高齢妊娠における有用性は大きく、今後は産婦人科領域との連携によるさらなる検証が期待される。

キーワード：中医学、安胎法、流産率、低出生体重児、産後予後